

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	八代市鏡町地区地域水産業再生委員会
代表者名	山口 秀康

再生委員会の構成	鏡町漁業協同組合、八代市水産林務課、熊本県南広域本部水産課
オブザーバー	無し

※再生委員会規約及び推進体制のわかる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	鏡町漁協の定款で定める地区内の漁業者67名 (マガキ養殖35名(採貝漁業、漁船漁業等と兼業)、採貝漁業13名、ノリ養殖3名等)
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

八代市鏡町周辺海域は、八代海の湾奥部に位置しており、延縄、流し網、小型定置網等の漁船漁業、干潟域を利用した採貝漁業、ノリ養殖業が行われている。また、近年、八代海湾奥部の豊富なプランクトンを生かしたカキ類の養殖業にも着手している。

地域の漁業の現状として、漁船漁業では、温暖化や海域環境の悪化、乱獲等の影響で、年々漁獲量が減少してきている。また、採貝漁業では、主力となるアサリ資源が、大雨等の環境の要因による大量へい死、乱獲、食害生物の影響で減少している。ノリ養殖業についても近年、経営体数の減少に加え、ノリの色落ちが早期に進んでおり、生産量が激減している。

このような中、新しい漁業収入源として、マガキ養殖業にも取り組みはじめたが、安定生産が課題となっている。

## (2) その他の関連する現状等

漁業用資材及び燃油価格の高騰により、漁業経費の増加が地域の漁業経営を圧迫している。また、新規就業者の減少と漁業者の高齢化による後継者不足が課題である。

新たな漁業収入確保の観点から、平成25年度にカキ小屋「鏡オイスターハウス」を開業し、マガキの直売を開始したが、安定的な運営及び地域の他の水産物を売り込む拠点にすることが課題である。

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

- ①アサリの資源回復、ハマグリ資源管理による採貝漁業の再生
- ②ノリ(イワノリ)の安定生産による収益の維持
- ③マガキ、クマモト・オイスター養殖の推進及び養殖コストの削減
- ④カキ小屋を使った販路拡大、地元水産物の付加価値向上、商品開発
- ⑤観光型漁業の推進
- ⑥漁船の減速航行の推進及び効率的な漁獲方法の検討による漁業コストの削減

## (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

※プランの取り組みに関する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

## (3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

(取組内容については、取組みの進捗状況や得られた成果等を踏まえて必要に応じて見直すこととする。)

1年目(平成26年度)

漁業収入向上のための取組	<p>①採貝業者は漁協とともに、資源量が減少しているアサリについて、干潟耕うん等による漁場改善及び稚貝の保護を目的とした稚貝採集ネットの設置及び管理、食害生物等の駆除を行い、資源の回復を図る。</p> <p>②ノリ(イワノリ)養殖業者は、適水温での採苗の開始日、一日の干出時間の調整、摘採時期等の適切な養殖を全員で統一して行い、生産額を維持する。</p> <p>③④マガキ養殖業者は漁協とともに、高品質で安定的な生産を行うため、イカダの配置や沖出しのタイミング、生育水深の変更等について、試行するとともに、得られた結果を踏まえ養殖手法の改善を行う。</p> <p>また、生産したマガキ等は、カキ小屋「鏡オイスターハウス」で焼ガキ等を提供するとともに、本年度より新たに持ち帰り用としての販売や地方発送を行うため、商品パッケージを作成し販路拡大を図る。また、地元水産物(魚類、貝類、イワノリ)も「鏡オイスターハウス」等で提供・販売することで、付加価値を高め、漁業収入の向上を図る。</p> <p>これらの取組により、基準年の漁業収入より魚類等で1%以上、マガキ等で20%以上向上する。</p>
--------------	--

漁業コスト削減のための取組	<p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、漁船の減速航行の慣行し、推進機関を換装する場合は、低燃費機関の導入を推進する。</li> <li>・マガキ養殖業者は、マガキの収穫を一度に数日出荷分を脱貝し、カゴで蓄養することにより、脱貝機船の使用回数を減らすことで、燃油使用量を削減する。</li> </ul> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業コストより5%以上削減する。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業(水産庁)、活力あるくまもと水産業づくり事業(熊本県)、栽培漁業振興事業(八代市)、漁場環境保全事業(八代市)

### 2年目(平成27年度)

漁業収入向上のための取組	<p>①採貝業者は漁協とともに、資源量が減少しているアサリについて、削土覆砂、干潟耕うん等による漁場改善及び稚貝の保護を目的とした稚貝採集ネットの設置及び管理、食害生物等の駆除を行い、資源の回復を図る。</p> <p>②ノリ(イワノリ)養殖業者は、適水温での採苗の開始日、一日の干出時間の調整、摘採時期等の適切な養殖を全員で統一して行い、生産額を維持する。</p> <p>③④マガキ養殖業者は漁協とともに、高品質で安定的な生産を行うため、イカダの配置や沖出しのタイミング、生育水深の変更等を試行し、得られた結果を踏まえ養殖手法の改善を行うとともに養殖規模を拡大する。</p> <p>また、生産したマガキ等は、カキ小屋「鏡オイスターハウス」で焼ガキ等を提供するとともに、持ち帰り用としての販売や地方発送を行うことで販路拡大を図る。また、地元水産物(魚類、貝類、イワノリ)も「鏡オイスターハウス」等で提供・販売することで、付加価値を高め、漁業収入の向上を図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業収入より魚類等で2%以上、マガキ等で60%以上向上する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、漁船の減速航行の慣行し、推進機関を換装する場合は、低燃費機関の導入を推進する。</li> <li>・干潟漁場における削土覆砂は、航路の距離短縮の効果もあるため、漁場までの航行距離を短縮し、燃油使用量の削減に努める。</li> <li>・マガキ養殖イカダの規模拡大により漁業コストの増加が見込まれるため、マガキ養殖業者は、マガキの収穫を一度に数日出荷分を脱貝し、カゴで蓄養することにより、脱貝機船の使用回数を減らすことで、燃油使用量の増加を最小限に留める。</li> </ul> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業コストを維持するよう努める。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業(水産庁)、水産基盤整備事業のうち水産環境整備事業(水産庁)、活力あるくまもと水産業づくり事業(熊本県)、栽培漁業振興事業(八代市)、漁場環境保全事業(八代市)

### 3年目(平成28年度)

漁業収入向上のための取組	<p>①採貝業者は漁協とともに、資源量が減少しているアサリについて、削土覆砂、干潟耕うん等による漁場改善及び稚貝の保護を目的とした稚貝採集ネットの設置及び管理、食害生物等の駆除を行い、資源の回復を図る。また、大型アサリのみを漁獲しながら、目標年度のアサリ漁業収入の30%程度の漁獲を行えるよう努める。</p> <p>②ノリ(イワノリ)養殖業者は、適水温での採苗の開始日、一日の干出時間の調整、摘採時期等の適切な養殖を全員で統一して行い、生産額を維持する。</p> <p>③④マガキ養殖業者は漁協とともに、高品質で安定的な生産を行うため、イカダの配置や沖出しのタイミング、生育水深の変更等を試行し、得られた結果を踏まえ養殖手法の改善を行うとともに養殖規模を拡大する。</p> <p>また、生産したマガキ等は、カキ小屋「鏡オイスターハウス」で焼ガキ等を提供するとともに、持ち帰り用としての販売や地方発送を行うことで販路拡大を図る。また、地元水産物(魚類、貝類、イワノリ)も「鏡オイスターハウス」等で提供・販売することで、付加価値を高め、漁業収入の向上を図る。</p> <p>⑤漁協は、採貝業者とともに、アサリ資源の回復状況をもつつ、潮干狩り体験等の観光漁業を再開させる。また、「鏡オイスターハウス」とあわせた観光漁業の推進により、副収入の増加を図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業収入より魚類等で3%以上、マガキ等で80%以上向上する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁船は、漁船の減速航行の慣行し、推進機関を換装する場合は、低燃費機関の導入を推進する。</li> <li>・干潟漁場における削土覆砂は、航路の距離短縮の効果もあるため、漁場までの航行距離を短縮し、燃油使用量の削減に努める。</li> <li>・マガキ養殖イカダの規模拡大により漁業コストの増加が見込まれるため、マガキ養殖業者は、マガキの収穫を一度に数日出荷分を脱貝し、カゴで蓄養することにより、脱貝機船の使用回数を減らすことで、燃油使用量の増加を最小限に留める。</li> </ul> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業コストを維持するよう努める。</p>
活用する支援措置等	水産基盤整備事業のうち水産環境整備事業(水産庁)、栽培漁業振興事業(八代市)、漁場環境保全事業(八代市)

4年目(平成29年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①採貝業者は漁協とともに、資源量が減少しているアサリについて、削土覆砂、干潟耕うん等による漁場改善及び稚貝の保護を目的とした稚貝採集ネットの設置及び管理、食害生物等の駆除を行い、資源の回復を図る。また、大型アサリのみを漁獲しながら、目標年度のアサリ漁業収入の60%程度の漁獲を行えるよう努める。                  ②ノリ(イワノリ)養殖業者は、適水温での採苗の開始日、一日の干出時間の調整、摘採時期等の適切な養殖を全員で統一して行い、生産額を維持する。                  ③④マガキ養殖業者は漁協とともに、高品質で安定的な生産を行うため、イカダの配置や沖出しのタイミング、生育水深の変更等を試行し、得られた結果を踏まえ養殖手法の改善を行うとともに養殖規模を拡大する。                  また、生産したマガキ等は、カキ小屋「鏡オイスターハウス」で焼ガキ等を提供するとともに、持ち帰り用としての販売や地方発送を行うことで販路拡大を図る。また、地元水産物(魚類、貝類、イワノリ)も「鏡オイスターハウス」等で提供・販売することで、付加価値を高め、漁業収入の向上を図る。                  ⑤漁協は、採貝業者とともに、アサリ資源の回復状況をみつつ、潮干狩り体験等の観光型漁業を行う。また、「鏡オイスターハウス」とあわせた観光漁業の推進により、副収入の増加を図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業収入より魚類等で4%以上、マガキ等で100%以上向上する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>⑥                  ・全漁船は、漁船の減速航行の慣行し、推進機関を換装する場合は、低燃費機関の導入を推進する。                  ・干潟漁場における削土覆砂は、航路の距離短縮の効果もあるため、漁場までの航行距離を短縮し、燃油使用量の削減に努める。                  ・マガキ養殖イカダの規模拡大により漁業コストの増加が見込まれるため、マガキ養殖業者は、マガキの収穫を一度に数日出荷分を脱貝し、カゴで蓄養することにより、脱貝機船の使用回数を減らすことで、燃油使用量の増加を最小限に留める。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コスト増加率を基準年の20%以内に抑える。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>栽培漁業振興事業(八代市)、漁場環境保全事業(八代市)</p>

5年目(平成30年度)

(最終年度であり、今までの成果を検証するとともに、取組内容を見直しつつ、引き続き以下の取組みを確実に実施する。)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①採貝業者は漁協とともに、資源量が減少しているアサリについて、削土覆砂、干潟耕うん等による漁場改善及び稚貝の保護を目的とした稚貝採集ネットの設置及び管理、食害生物等の駆除を行い、資源の回復を図る。また、大型アサリのみを漁獲しながら、目標年度のアサリ漁業収入程度の漁獲を行えるよう努める。                  ②ノリ(イワノリ)養殖業者は、適水温での採苗の開始日、一日の干出時間の調整、摘採時期等の適切な養殖を全員で統一して行い、生産額を維持する。                  ③④マガキ養殖業者は漁協とともに、高品質で安定的な生産を行うため、イカダの配置や沖出しのタイミング、生育水深の変更等を試行し、得られた結果を踏まえ養殖手法の改善を行うとともに養殖規模を拡大する。                  また、生産したマガキ等は、カキ小屋「鏡オイスターハウス」で焼ガキ等を提供するとともに、持ち帰り用としての販売や地方発送を行うことで販路拡大を図る。また、地元水産物(魚類、貝類、イワノリ)も「鏡オイスターハウス」等で提供・販売することで、付加価値を高め、漁業収入の向上を図る。                  ⑤漁協は、採貝業者とともに、アサリ資源の回復状況をみつつ、潮干狩り体験等の観光型漁業を行う。また、「鏡オイスターハウス」とあわせた観光漁業の推進により、副収入の増加を図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業収入より魚類等で5%以上、マガキ等で120%以上向上する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>⑥                  ・全漁船は、漁船の減速航行の慣行し、推進機関を換装する場合は、低燃費機関の導入を推進する。                  ・干潟漁場における削土覆砂は、航路の距離短縮の効果もあるため、漁場までの航行距離を短縮し、燃油使用量の削減に努める。                  ・マガキ養殖イカダの規模拡大により漁業コストの増加が見込まれるため、マガキ養殖業者は、マガキの収穫を一度に数日出荷分を脱貝し、カゴで蓄養することにより、脱貝機船の使用回数を減らすことで、燃油使用量の増加を最小限に留める。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストの増加率を基準年の20%以内に抑える。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>栽培漁業振興事業(八代市)、漁場環境保全事業(八代市)</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

--

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成	年度	千円
	目標年	平成	年度	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等については詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
未定	漁業コスト削減のための低燃費推進機関を導入する。
水産多面的機能発揮対策事業	アサリ資源回復のための干潟耕うん、食害生物除去、アサリ稚貝保護等を実施。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」を「未定」とし、「事業内容及び浜の活力プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により関連施策の実施を確約するものではない。